

《 疾病別 推移グラフ 》
《 月別 集計コメント 》

第44週 (R3.11.1～R3.11.7)

■今週のトピックス

今週(2021年第43週:11/1-11/7)は休日1日を含みます。手足口病・ヘルパンギーナは連続減少している。RSウイルス感染症の報告は続く。感染性胃腸炎は食中毒原因細菌の報告が続きノロウイルスの報告もある。
緊急事態宣言をR3.7/12に東京都に4回目発令(東京都・沖縄県)、その後8/20に福岡県も指定等の追加・中止・移行あり、9/13から計19都道府県に発令されたが9/30までで解除。まん延防止等重点措置をR3.4/5に初適応、福岡県も適応・解除等の追加・中止・移行あり9/13から計8県に適応されたが9/30までで解除。

病名	定点報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	0	±0		0.00	0.00
RSウイルス感染症	47	64%	福岡32、筑後11	0.39	0.30
咽頭結膜熱	22	+7	福岡20、筑後1	0.18	0.10
A群溶連菌咽頭炎	151	93%	福岡135、筑後10	1.26	0.60
感染性胃腸炎	620	107%	福岡330、北九州147	5.17	2.61
水痘	14	+5	福岡10、筑後2	0.12	0.08
手足口病	522	74%	福岡271、北九州113	4.35	1.52
伝染性紅斑	0	-1		0.00	0.02
突発性発しん	71	187%	福岡37、北九州20	0.59	0.34
ヘルパンギーナ	67	39%	福岡39、北九州16	0.56	0.61
流行性耳下腺炎	4	±0	北九州3、福岡1	0.03	0.04
川崎病(MCLS)	1	-2	筑後1	0.01	
マイコプラズマ肺炎	0	-1		0.00	0.02
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
無菌性髄膜炎	1	-1	福岡1	0.01	0.02
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	6	+3	福岡5、筑豊1	0.23	0.19
性器クラミジア感染症	19	-3	福岡9、筑後4	0.51	
性器ヘルペス	5	-1	福岡5	0.14	
尖圭コンジローマ	1	±0	筑後1	0.03	
淋菌感染症	8	-9	福岡5、北九州2	0.22	

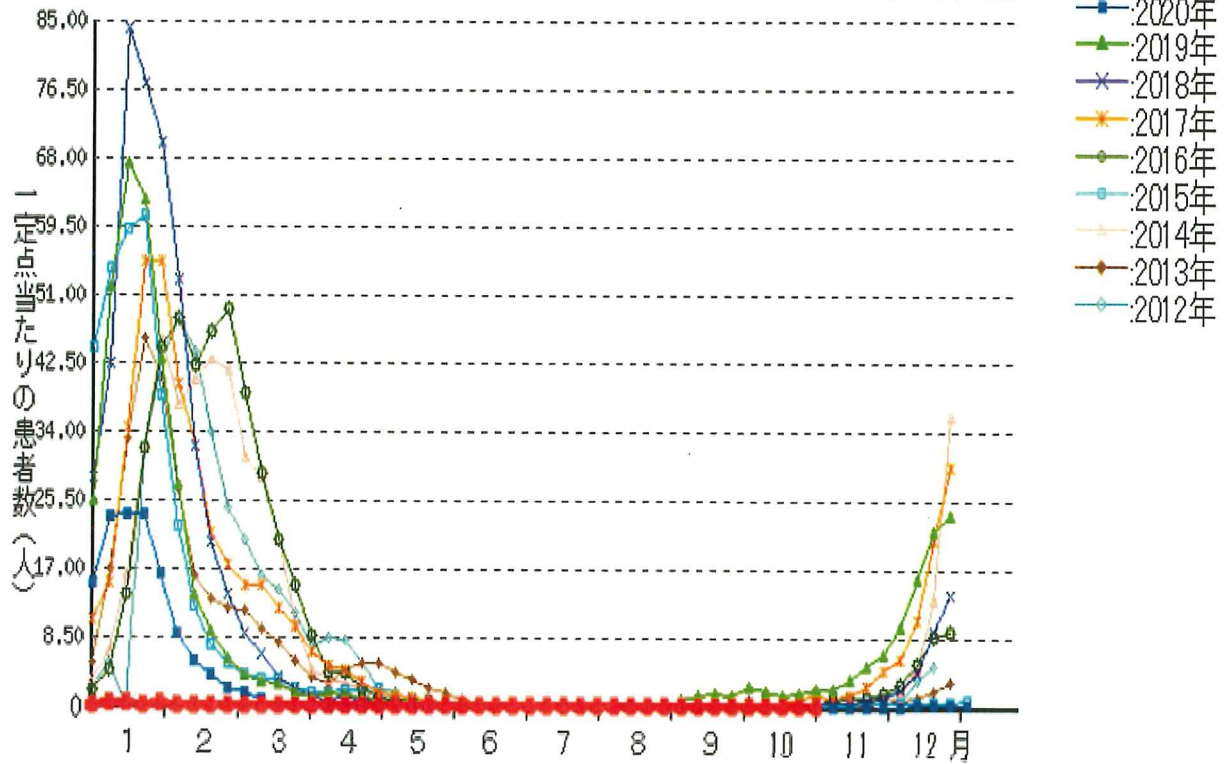
※ 全数報告疾病 43週(定点報告数は44週分)

病名	定点報告数	全数報告数(累計)	主な報告地区等	全国報告数(累計)
百日咳	0	1(25)	福岡1	13(511)
風しん	0	0(0)		0(10)
麻しん	0	0(1)		0(4)
梅毒	3	2(271)	筑後1、福岡1	130(6233)

全国情報は令和3年43週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎8、クラミジア肺炎0例。
令和3年43週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核12955(県内697)、新型コロナウイルス1541(今週13、県内0)、コレラ0、細菌性赤痢6(県内0)、腸管出血性大腸菌感染症2729(今週70、県内今週5、計158)、腸チフス1(県内0)、パラチフス0、E型肝炎361、A型肝炎62(今週3、県内2)、オウム病8、ジカウイルス感染症0、SFTS107(県内1)、チクングニア熱0、つつが虫病156、デング熱5(県内0)、日本紅斑熱427、急性弛緩性麻痺20(今週1、県内0)、日本脳炎3(県内0)、マラリア21(県内0)、レジオネラ症1732、アメーバ赤痢440、ウイルス性肝炎160(県内7)、急性脳炎278(県内20)、クロイツフェルト・ヤコブ病148、劇症型溶レン菌感染症526(県内23)、後天性免疫不全症候群847(県内46)、侵襲性インフルエンザ菌感染症157(県内12)、侵襲性髄膜炎菌感染症2、侵襲性肺炎球菌感染症1094(県内62)、水痘(入院)230(県内12)、先天性風しん症候群1。1類感染症の報告はない。

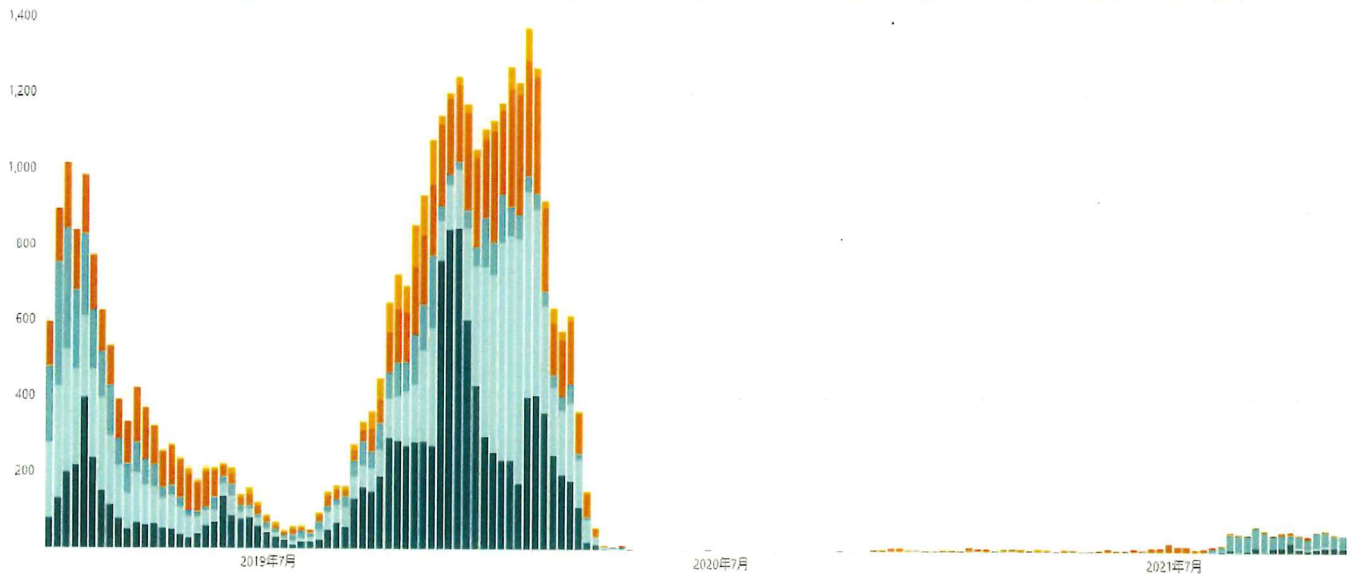
■インフルエンザ（福岡県全域）

2021年 第44週 現在



西アジアのインフルエンザ流行状況（2019～2021年）

●インフルエンザA型は入力されていない ●インフルエンザA(H1) ●インフルエンザA(H1N1)pdm09 ●インフルエンザA(H3) ●インフルエンザB(系統は決定されない) ●インフルエンザB(ビクトリア株) ●インフルエンザB(山形)

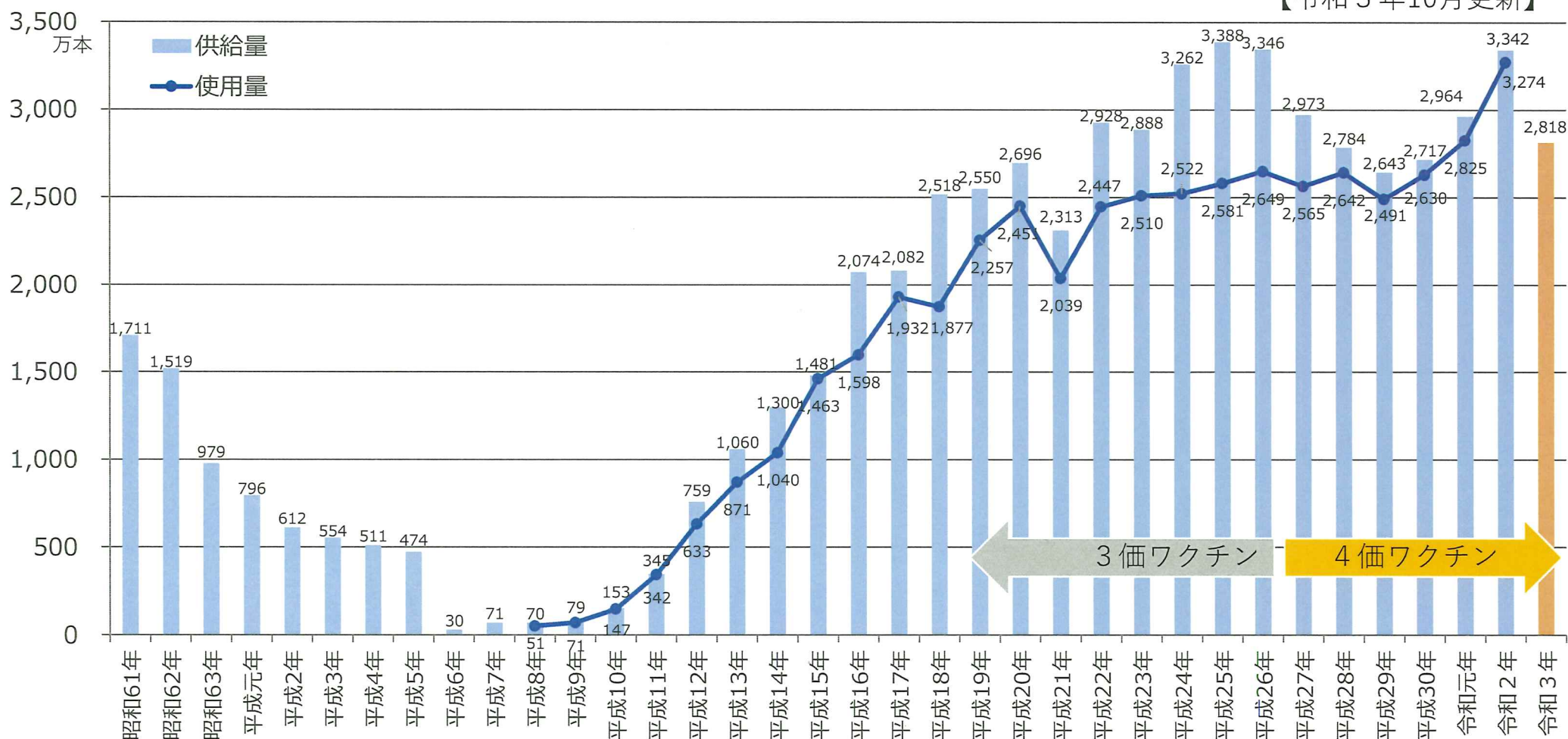


出典：WHOインフルエンザ報告より

2021/22シーズンのインフルエンザワクチンの供給量の見込み 別紙1

- 今年度のインフルエンザワクチンは、製造効率等が特に良かった昨年度とは異なり、例年と同程度の製造効率等である。
- 平成8年以降で最大となった昨年の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度は供給される見込み。

【令和3年10月更新】

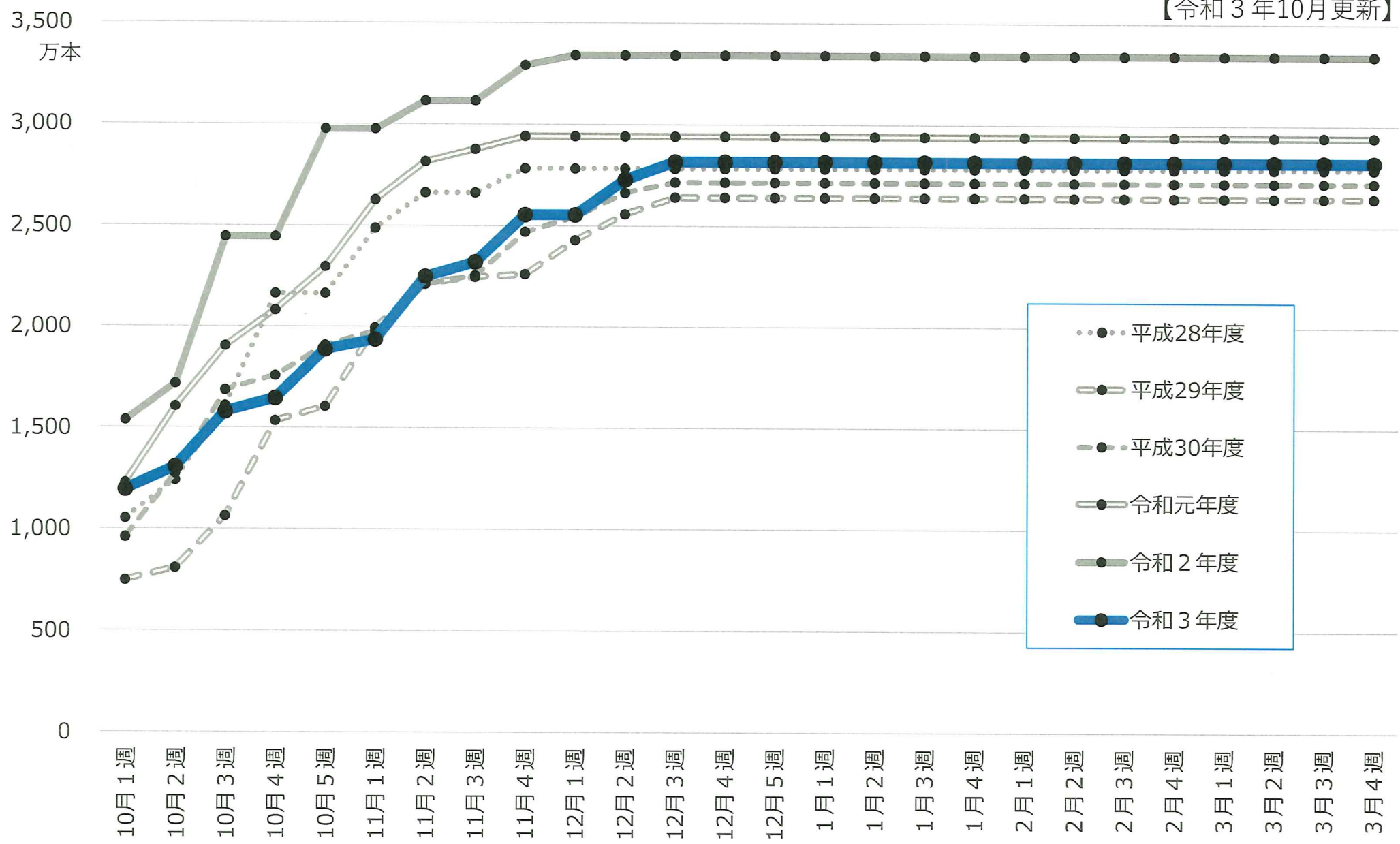


※1 平成7年以前の使用量は不明

※2 1mL換算

2021/22シーズンにおけるインフルエンザワクチンの供給（週次） 別紙2

【令和3年10月更新】

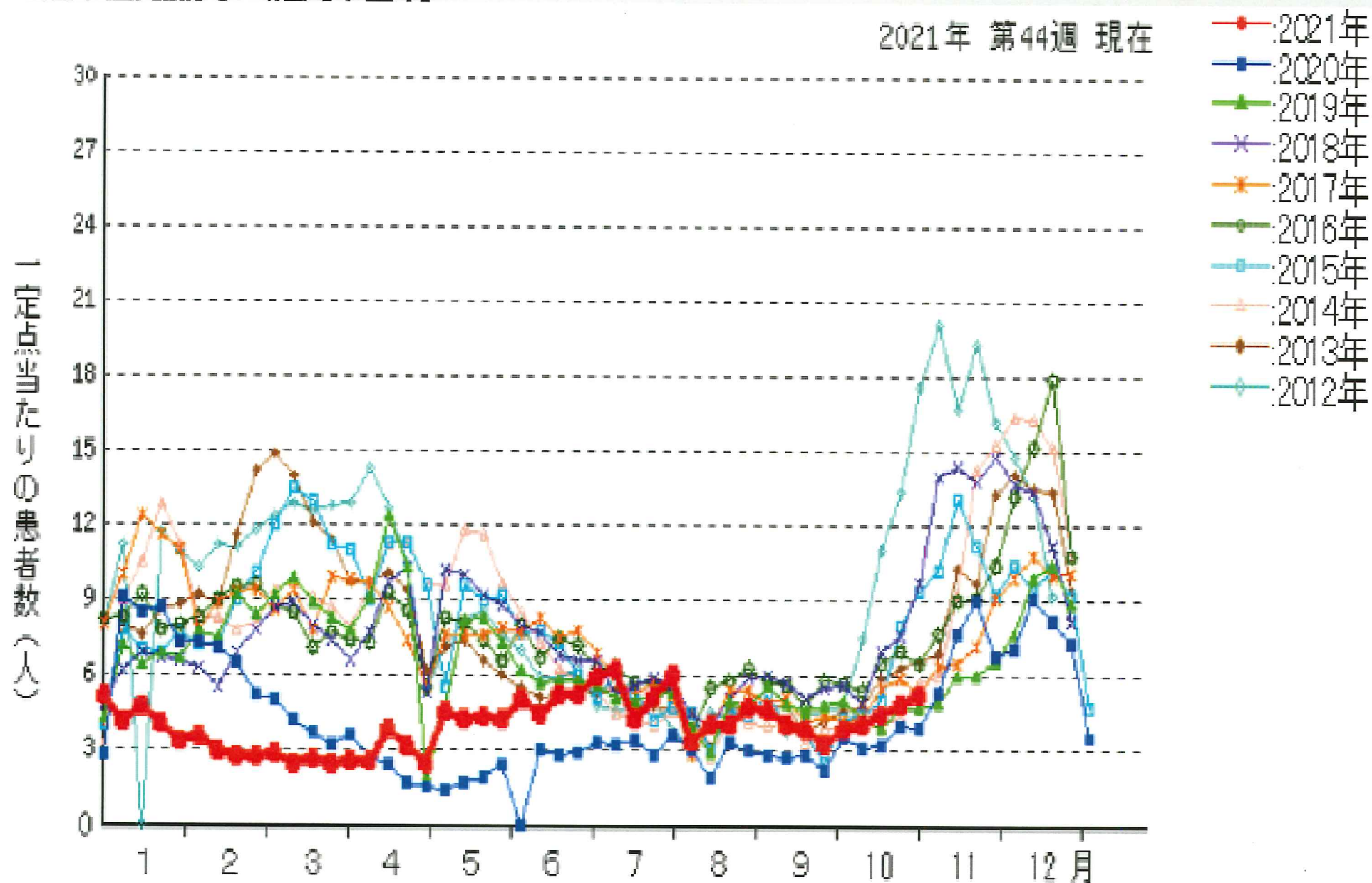


注1) 供給量は、いずれも1mL換算。

注2) 週の表示は金曜日を基準としている。

■ 感染性胃腸炎 (福岡県全域)

2021年 第44週 現在



冬は特にご注意ください！

ノロウイルス

による

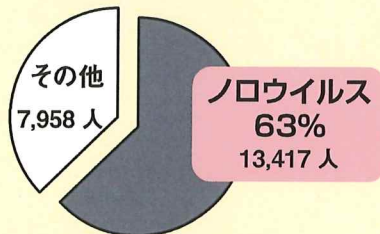
食中毒

食中毒は夏だけではありません。
ウイルスによる食中毒が
冬に 多発しています!!!

データでみると

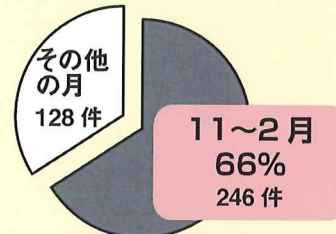
ノロウイルスによる食中毒は、

◆患者数で第1位



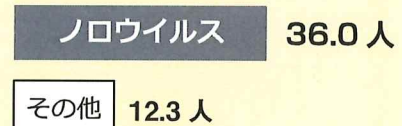
原因別の食中毒患者数（年間）

◆冬期に多い



ノロウイルス食中毒の発生時期別の件数（年間）

◆大規模な食中毒になりやすい



食中毒1件あたりの患者数

※出典：食中毒統計（平成24～28年の平均。病因物質が判明している食中毒に限る）

ノロウイルスによる食中毒予防のポイント

調理する人の

健康管理

- 普段から感染しないように食べ物や家族の健康状態に注意する。
- 症状があるときは、食品を直接取扱う作業をしない。
- 毎日作業開始前に調理従事者の健康状態を確認し、責任者に報告する仕組みをつくる。

作業前などの

手洗い

- 洗うタイミングは、
 - ◎ トイレに行ったあと
 - ◎ 調理施設に入る前
 - ◎ 料理の盛付けの前
 - ◎ 次の調理作業に入る前
 - ◎ 手袋を着用する前
- 汚れの残りやすいところをていねいに
 - ◎ 指先、指の間、爪の間
 - ◎ 親指の周り
 - ◎ 手首、手の甲

調理器具の

消毒

洗剤などで十分に洗浄し、熱湯で加熱する方法又はこれと同等の効果を有する方法で消毒する。

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「ノロウイルスに関するQ&A」をご覧ください。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

ノロウイルスQ&A

検索



ノロウイルスの感染を広げないために

食器・環境・ リネン類などの

消毒

- 感染者が使ったり、おう吐物が付いたものは、他のものと分けて洗浄・消毒します。
- 食器等は、食後すぐ、厨房に戻す前に塩素消毒液に十分浸し、消毒します。
- カーテン、衣類、ドアノブなども塩素消毒液などで消毒します。
 - 次亜塩素酸ナトリウムは金属腐食性があります。金属部（ドアノブなど）消毒後は十分に薬剤を拭き取りましょう。
- 洗濯するときは、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いし、十分すすぎます。
 - 85℃で1分間以上の熱水洗濯や、塩素消毒液による消毒が有効です。
 - 高温の乾燥機などを使用すると、殺菌効果は高まります。

おう吐物などの

処理

- 患者のおう吐物やおむつなどは、次のような方法で、すみやかに処理し、二次感染を防止しましょう。ノロウイルスは、乾燥すると空中に漂い、口に入って感染することがあります。
 - 使い捨てのマスクやガウン、手袋などを着用します。
 - ペーパータオル等（市販される凝固剤等を使用することも可能）で静かに拭き取り、塩素消毒後、水拭きをします。
 - 拭き取ったおう吐物や手袋等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。その際、できればビニール袋の中で1000ppmの塩素消毒液に浸します。
 - しぶきなどを吸い込まないようにします。
 - 終わったら、ていねいに手を洗います。

塩素消毒の方法

次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて「塩素消毒液」を作ります。なお、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用できます。

*濃度によって効果が異なりますので、正しく計りましょう。

製品の濃度	食器、カーテンなどの 消毒や拭き取り 200ppmの濃度の塩素消毒液		おう吐物などの廃棄 (袋の中で廃棄物を浸す) 1000ppmの濃度の塩素消毒液	
	液の量	水の量	液の量	水の量
12%	5ml	3L	25ml	3L
6%	10ml	3L	50ml	3L
1%	60ml	3L	300ml	3L



- ▶ 製品ごとに濃度が異なるので、表示をしっかり確認しましょう。
- ▶ 次亜塩素酸ナトリウムは使用期限内のものを使用してください。
- ▶ おう吐物などの酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがありますので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。
- ▶ 消毒液を保管しなければならない場合は、消毒液の入った容器は、誤って飲むことがないように、消毒液であることをはっきりと明記して保管しましょう。

ノロウイルスによる感染について

感染経路	症状
<p><食品からの感染></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 感染した人が調理などをして汚染された食品 ● ウイルスの蓄積した、加熱不十分な二枚貝など <p><人からの感染></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 患者のふん便やおう吐物からの二次感染 ● 家庭や施設内などでの飛沫などによる感染 	<p><潜伏時間></p> <p>感染から発症まで24~48時間</p> <p><主な症状></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 吐き気、おう吐、下痢、腹痛、微熱が1~2日続く。感染しても症状のない場合や、軽い風邪のような症状のこともある。 ● 乳幼児や高齢者は、おう吐物を吸い込むことによる肺炎や窒息にも要注意。